

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901019		
法人名	社会福祉法人 川崎寿松会		
事業所名	グループホームことぶき		
所在地	岩手県一関市川崎町薄衣字久伝26		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370901019-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370901019-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年2月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームことぶきは、土地環境に恵まれスーパーや道の駅などに歩いて直ぐの所にあります。毎日の買い物で外に出る機会を持ち、店員さんやお客様、近隣の方と顔なじみになっております。純和風作りの建物で、自宅で過ごしているという安心感を持って頂けるよう日々スタッフも頑張っております。四季折々の行事やドライブ。誕生日には、ケーキと本人さん希望の食事の提供や、入浴では母体の特養にある一般浴で温泉気分を味わったり行事参加と交流が出来ます。又リフト導入によりマタギのできない方でも湯船に入ることができます。少しでも家庭的な環境で生活して頂けるよう努力しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームことぶき周辺は、道の駅、商店、食堂等利便性に恵まれ、散歩や買い物に利用されており、地域との交流にも繋がっている。施設長、管理者と職員の信頼関係が良く図られており、不足がちな職員体制を、職員相互の工夫と努力で補い合い、入居者の笑顔を活かして業務をしている様子が見て取れる。新人職員には、先輩職員がつき、場面場面で指導する体制をとっている。入居者の定期通院には、家族が介助の対応をする体制を堅持しており、ホームも側面から支援している。法人の機能すべてが集約されて同地にあるが、頼り過ぎず、支え合いながら地域に貢献している姿は理想的である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寿松会全体の理念とホーム独自のモットーを目的のつく所に掲げて、意識している。又、年度末に個人で反省しそれを全員が共有し来年度に活かせる様、主任者会議・職員会議で公表し所長を先頭に努力している。	法人の理念、ホーム独自の目標を玄関、事務室に掲示してある。年度末に職員それぞれが反省を持ち寄り、検討課題を話し合い、次年度に活かしている。職員の使用するパソコン画面にテロップで理念を流し、常に目に入るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の認知症状が進み、会話が理解できず交流が難しいのが現状の中、寿松苑の有料喫茶・夏祭り・余興の見学をさせてもらったり、介護相談員との交流や慰問に来て頂いた方との会食会・推進会議等で実施できた。町文化祭出展参加し見学した。	散歩を兼ねた買い物、母体施設の行事への参加、公民館の文化祭にちぎり絵を出品、(地域の方から)野菜を頂いたりと交流が出来る。夏祭りには、近所の方も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で2か月に1回、近況状況として報告し、又、問題点等ある場合には議題を掲げ、出席された方にも意見を求めている。町文化祭に、入居者と担当職員との共同作業による作品(ちぎり絵)を出品した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の頻度で行ない、その場での話し合い・意見交換が職員全員へ伝達出来るよう努力した。各家族・地域の方々の意見を聞いて行事計画に活かした面もあった。推進会議の議事録を全家族へ送付している。	昔を思い出すことが出来る行事を提供して欲しい、との意見があり、季節ごとの飾り付けや、食事に配慮している。現在は、ひな祭りに向けて取り組んでいる。区長を通して、ホーム行事を地域の方にお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、日頃の状況報告をしている。AED設置している事を再度報告し、地域の方も緊急時は使用できることを報告している。	運営推進会議には、支所の福祉課が参加している。市主催の支援会議が年4回あり、参加して情報交換や、指導、助言をもらっている。「寿松会」では、震災を契機に、地域の支援にも協力する体制で、90人・5日分程の食料備蓄をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は職員一人な為、玄関は施錠している。日中は玄関鍵をかけず、入居者の希望で散歩や買い物に出かけたりして、気分転換したりしている。	不穏な状況が見えたときには、散歩に誘ったり、買い物の同行をお願いしている。ペットに立ち上がったたり、転倒防止に5人の入居者が離床マットを使用している。言葉掛けにも注意をして、日々のケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待防止関連法について学ぶ機会がもてなかった。忙しい時、人員不足の時に入居者に対して口調が強くなったり、声が大きくなってしまっているのが現状。職員間で注意し合う様に心かけている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の実例はなく、学ぶ機会もなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時に口答で契約書の説明をし、署名・捺印していただき、事業所・家族と1部ずつ保管している。不安・疑問点については随時間いて答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に不安なことや意見を聴くようにしている。、玄関に投書箱を設置し、意見頂くようにしたが意見はなし。	来訪時や電話で連絡のある時には、家族の意見を聞いているが、現在は出ていない。嗜好により、代替食(肉を魚に、牛乳をヨーグルトに)の希望が家族からあり、改善に向けて対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	寿松会全体の職員会議(月1回)、主任者会議(週1回)の時の意見交換、年度末の反省をした。グループホーム会議が2回しかできないでしまった。	ホーム内の「ことぶき会議」を毎月1回、計画されているが、25年度は開催できない月もあったので、毎月開催を目指して頂きたい。保安全管理は、委員会が担当しているため、職員の気付きで、その都度、対応が可能である。職員の増員も要望している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業が当たり前の状況が以前よりある。改善しようとして考えているが、続かないのが現状と現在は人員不足によりしょうがないが、かなり負担が大きい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に出席した職員の復命研修を聞いたり、自分が出席時には報告している。また、各委員会の担当責任者や各担当業務を振り分け、責任を持って月1回の各委員会を行なう様勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での定例会に参加した。もっと研修に参加したかったが、人員不足等の問題などから出来なかった事もあるが、グループホーム協会の交換研修に2名参加し研修報告をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段はなかなか1対1で、話をじっくりと聞いてあげる時間を作れないのが現状だが、その都度の要望には出来るだけすぐに応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や相談などは随時受け付けている。又運営推進会議の案内をし出席していただいた際に話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握をした上で必要な支援を確認し、出来るだけ支援する様にした。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の茶碗・コップ拭きや洗濯物を干しやすい様に広げたりしてくれる方がした。認知症状が進んだこともあってか以前に比べ、入居者の方が積極性が減り、面倒と思ったり出来ることが少なくなってきた様に思われる。畑仕事にも興味を持たなくなった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会だけでなく、受診・散髪・外食など、家族と過ごす機会を積極的に家族の方々をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記のように家族と過ごす機会を作ったり、知り合いの方や兄弟などの面会等いらした時には、本人の居室でゆっくり過ごしていただける配慮をした。	遠方からの友人や、姉妹が訪ねてきた時には、居室にて話しが出来るように、お茶やお菓子を提供したり、家族と床屋、美容院へ出かける機会を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行動や言葉でのトラブルがたまにあるが、座る席を検討したり職員が側に寄り添ったりなどで対応している。又、声をかけて出来ない方のお手伝いをしたりすることもある。居室に入居者が行き一人になることはあっても必ず職員が声をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居する場合は、家族や施設の担当の方と連絡をとって情報の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床・就寝時間、生活リズム・習慣等個々に合わせて支援している。ただ認知症状が重度化し、本人が何をしたいのか理解出来ないのも現状。ケアを統一出来る様職員で日々の申し送りの他、その都度の検討で把握出来る様努めている	自分から表現できない入居者があり、申し送り時や、日々の会話から汲み取りをしている。職員の接し方の違いで、入居者が混乱しないように、統一したケアの提供を申し合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握し日々の業務に努めている。日々の生活・行動は変化してきているので、それも把握した上で昔の話を本人に聞いたり話したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課として行なっている、ラジオ体操・居室の掃除・リハビリ体操を継続しながら健康保持に努めている。現状の把握は、日々の申し送りで支援の変更などもその都度伝達しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族の意向・本人の意向確認しながら実施。家族の要望がなかったり本人の意向確認できない場合が多く自立に向けた介護計画とは言えない。おむつゼロを目指し水分摂取量を約1850cc摂取できるよう努力している。	ケアプラン見直し、作成には本人・家族の意見、要望を重視し、担当職員、計画担当者等で担当している。年間を通して水分補給に力を入れている。介護用品の使用は増えたが、風邪など引かず、元気で過ごしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人ケア記録を含んだ日誌・申し送りノート・連絡ノートの伝達を実施している。個人のケア記録は毎月印刷し保管・御家族へも毎月送付している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族・地域の方々の希望を聞き入れながら出来る範囲で取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かい季節には散歩や買い物、近くの道の駅や薬王堂への外出を行ない地域の方に声を掛けていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急受診以外は家族の協力を得ている。受診の際には本人の日常の記録を渡し、口答でも伝えている。主治医への相談も必要時に手紙で行なっている。	ほとんどの入居者は定期通院に家族と出かけている。家族も協力的である。それぞれにかかりつけ医が異なるため、日常記録を提供して円滑な診療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時のバイタルチェックをし、体調不良時には日中で(9時から18時)あれば、寿松苑の看護師に協力依頼している。家族への連絡もその都度して、相談や受診対応お願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の訪問や家族や医師との連絡を取り合い、経過報告等聞いて退院時には、こちらで対処がスムーズに出来る様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の重度化・終末期の指針は出来ている。又、入居者様の中には特養の申し込みをされている方々もおり、家族も重度化になった場合には特養に入所したいという意向が多い。	重度化に対する家族の不安な気持ちに対して、同法人の特別養護老人ホーム利用を助言している。現在6人の家族が申し込みをしている。ホームとして介護の限界を理解いただき、出来る範囲までお世話することを伝えて、家族に安心をして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会と避難訓練をし、緊急時の対応を訓練した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	寿松会全体の総合避難訓練で、GHでも夜間想定避難訓練実施。職員間の非常時連絡簿での電話通報訓練を実施。地域の方の協力をいただいた。ことぶき単独でも地震・火災の避難訓練をした。	連絡網を使用して、電話連絡訓練を実施した。ホーム独自でも年5回訓練を行った。発電機、懐中電灯(各居室にもある)備蓄食、飴玉等を用意している。	ホーム単独の訓練も行われているが、職員1人の(夜間職員体制)夜間想定訓練であり、時間帯も日中である。今後、薄暮時間帯での訓練を実際に行ってみるなど、課題点の把握をしていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格に合わせて、理解出来る様声かけをしているが、どうしてもすぐに声を掛けなければならない時、大きな声で呼んだりすることもあった。	入居者には「さん」で呼び掛けをしている。脱衣場での対応は、必ず衣服を着た状態でドアの開閉をしている。声掛けも、出来るだけ本人の近くで、大きな声を出さないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事でどんなものを食べたいのか普段聞いたり、入居者の誕生日にはその方の希望を聞き提供している。解からない方には、昔好きだった物を提供したりしている。他の支援についても、選択出来る様声を掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の出勤人数にもよるが、出来るだけ個人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声を掛けながら、身だしなみ等に気をつけている。解からない方にも、職員が手を加え身だしなみ等に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔懐かしい食べ物、行事に合わせた食事、誕生日の希望食等で楽しんでいただけていると思う。出来る範囲で食事前のテーブル拭き、食事後の下膳等行なっている。	献立は全職員で、1週間分を作成しているが、差し入れ等で変更もある。誕生日には希望の献立を作り、必ずケーキを添えている。職員も入居者と同じ食事をしている。調理2人、買い物2人、下膳4人の入居者が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉類・魚類、青物・酢の物を交互に提供する様にしている。水分は1人1850cc～2000ccを摂取している。栄養バランスについては、特養管理栄養士に献立確認(年2回)を依頼しアドバイスや指導ある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯が一本でも残っている方は歯みがきを実施している。夕食後には義歯がある方はブラシで磨いて義歯洗浄剤につけている。又、全員毎食後に緑茶でうがいをしている。舌磨きも実施。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立での排泄は声掛けと付き添いを行ないながら支援している。又、膀胱訓練を含めた体操をほとんど毎日行っている。	自立の方2人、全介助の方が2人で、他は一部介助となっている。毎日、テレビ体操をして筋力の低下防止をしている。介助が必要な入居者でも日中は、布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は普通食と1日おきの手作りヨーグルト、水分は1日1850cc以上を実施している。又、便秘予防・解消を含めた体操をほとんど毎日行っている。実際に下剤の量が減ったり、服用せずに排便がみられる様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シャワーチェア、浴槽内イスを使用し、安心して入浴出来る様支援している。又、暖かい季節には寿松苑の一般浴槽・中間浴槽を使用させていただき、数名での入浴など温泉気分を味わえた。また、6月よりリフト導入しまたぎのできない方でも湯船に入ることができている。	「遅番2」の職員が1日おきに午後に担当し、3~4人を介助している。時々、拒否があるが、無理強いはしない。シャワーチェア、ネットリフトが導入され、安全な支援が可能になった。夏場は夕食後に入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回りネン交換を実施している。寒い時期には、各部屋ごとにエアコン、食堂ではファンヒーターで温度管理をし、加湿器では湿度の管理に注意している。1日2回の換気も実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各入居者のファイルに綴じて、いつでも確認出来る様にしている。又、薬の内容が変更や追加になった場合には、日誌・申し送りしてノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の誕生日会に希望する食事やケーキの提供をしている。又、行事の際の献立も工夫している。仕事の役割もそれぞれ出来ること(洗濯たみ、食器拭き等)をやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・ドライブ等、外に出掛ける機会を作っている。又、本人の希望があれば、出来る範囲で付き合い外出している。今年は、沿岸ヘドライブ・外食実施。秋には紅葉ドライブの行事を実施。	散歩を兼ねた買い物、雨の日には母体施設をゆっくり歩くなど、外気浴をしている。家族同伴でのバスハイクも行っている。介護度が高くなり、昨年出来たことが、今年は困難になっていることも多くなってきている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして施設側で管理している。預かる際には本人にも、家族の方からお金を預かっていることを説明し理解を得ている。必要に応じ対応している。又、外出時の昼食や飲み物代にも許可を得て使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話を掛けたり又、家族から電話があった時は出来るだけ本人にかわり家族と話が出るよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内は自由に行動できる構造になっている。又、場所がどこであるか(風呂場、便所、各入居者室)を表示し目印にしている。室温・温度・換気には毎日気を配り体調管理に努めている。	太い梁、柱など和風作りで、落ち着きと、安らぎが感じられる。掃除が行き届き、清潔である。行事の写真や、作品が適度に展示されてある。体調管理に力を入れており、温・湿度は、しっかりと管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内を自由に行動し、所々にある椅子で休まれたりお部屋で日向ぼっこをしたりとゆったり過ごせている。それぞれの好きな場所があり、動いて満足している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や人形等を持って来て頂き、落ち着く空間作りに努めている。異食などの傾向がある方については、安全を考えて整理させてもらっている。それぞれ本人に合った寝具(布団・ベッド)使用。	居室は、整然と整頓されているが、生活が感じられる。持ち込みは多くはないが、整理タンス、長座布団、人形(孫にして可愛がっている)などを大事にしている。間違い防止に、居室前に名前を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口・食堂テーブルに、本人の名前を表示し、自分で名前を見つけて行動していただいている。それでも解からない方は付き添い・誘導している。安全に暮らせる様に、刃物・針等については施設で預かっている。		